2Pa－5

「1995年農業センサス」のジェンダー視点からの検討
ー「第２巻　農家調査報告書　総括編」を中心にー

○粕谷美砂子*、天野寛子**、伊藤セツ*3
（*昭和女大・院、**昭和女大短大、*3昭和女大女文研）

［目的］1996年12月に男女共同参画推進本部は「男女共同参画2000年プラン」を策定し、「農山漁村におけるパートナーシップの確立」を方向づけた。その中で、農業就業人口の6割を女性が占めているにもかかわらず、農業労働・家事労働・地域社会への女性の貢献が平等に評価されていないことを指摘している。国立婦人教育会館の『女性及び家族に関する統計　データーベース研究開発報告書』は農業関連統計を除外しているため、特に「労働」の分野において農業労働のジェンダー問題が見えてこない。以上のことから本研究は、女性農業者が直面している問題を把握する上で、「農業センサス」をどう改善すべきかを検討し、提言を行う。

［方法］「1995年農業センサス　第２巻　農家調査報告書ー総括編ー」を中心に用いる。さらに、「農業センサス」をジェンダー統計の充実度合いという視点から分析する。

［結果］「農業センサス」統計表の表頭に平等なジェンダー関係が明示されていないものが見られた。このことは女子労働力が依然として補助的に捉えられていることを表している。一方就業状態別世帯員数においては「家事・育児が主の人」は女性にのみ表示されており、性別役割分担が前提とされていることが示された。農業調査票においてはすべての個人別データーが得られるにもかかわらず、統計表には表れていない。「世帯主」や「あとつぎ」をめぐっても男性主体が前提とされている。パートナーシップを確立するために、女性農業従事者の置かれた状況を客観的に把握できる分類指標と公表利用の可能性が考慮されるべきである。以上の検討によりいくつかの改善点を提起した。